

ぼくに。このボランティア

見附市立名木野小学校 六年 山田 翔太

ぼくは、新潟県の見附市という所に住んでいます。この見附市は、おとし大変な災害に二つもみまわれました。

その一つは、七・一三水害です。集中的に降った雨で、刈谷田川がはんらんし、ぼくの住んでいる町内は、水位約百五十cm程のどろ水が押し寄せて来て、水びたしになりました。いましました。

その夜は、ぼくの家族やたくさんの人達がい難所で悲しんだり、不安になりました。たりしていません。学校から家に帰ることができず、学校に泊まった。友達が全校の約三分の一いました。

そんな辛い事もあり、一時期大雨が降ると、早く、早くい難の準備をした方が……。と、さわぎ立てる事もありました。

そんな中、さらに追いうちをかけるように新潟県中えつ地震が起きました。見附市は、

震源地から遠かった。たのぼくの家は、かべにひびが入った。たり机が大幅に動いたぐらいで済みました。しかし、近所では水害の時からひき続いて、仮設住宅に住んでいる人たちもまだたくさんいます。他にも、ぼくの家近所では道路がくずれたりへこんだりもり上がったりしてひどいありさまでしたし、学校では校門がくずれたりしました。さらに、旧山古志村や川口町、小千谷などはとても大きい被害を受けました。その中にも、まだ復興できなにかわいそうな所もあります。

この地震後、小さな物音も気にかかるようになりましたし、「この「地震大国」と呼ばれる日本が、今も大きな地震がいつどこで来るか来ないかと心配です。

でも、こんな厳しい災害で暗く、つかれきった被災者の心を明るく照らしてくれた存在があります。それは、「ボランティア」です。

被災者のぼく達は、いろいろな場面で、ボランティアの、とても大きな力に助けられて

いました。例えば、水害や地震の時、「救援物資」が無ければ、食べ物が無くて大変だ。たし、水害のあと片付けの時、ビニルぶくろといった日用品や、復興のための道具が無ければ、被害がさらにかく大し復興はとてもおくれていたと思います。

それと、復興作業を手伝いに来てくれる人もいました。それは、水害の後ぼくの町内にも来てくれて、市営住宅の片付け作業をしてくれていたし、学校にもたくさんの方が来てくれて、学校の復興作業を手伝ってくれました。この立派な人達がいってくれなかつたら、学校が始まるのがおそくなって、学習に大きな支障をあたらえたと思います。

ぼくは、この人達はとてもすごい人達だと思っ。たし、ボランティアの見方が、「自分がやりたいと思うからやる」から、「人の役に立って喜ばれる物」に大きく変わりました。

そんな事もあり、名木野小学校では、災害前と災害後では、ボランティアの参加人数は

異なり、災害後の方がたくさんの方が積極的にボランティアに参加するようになりました。それは、ぼくみたいにして、一人の役に立ちたいという心の変化がみんなにあったんじゃないかなと思います。

ぼくは、この二つの災害を通して、一人と人が支え合って助け合いながらみんな生きていくと、改めて実感する事が出来ました。